

事務事業名	多留姫文学自然の里整備活用事業	事業期間	～	年度	係内番号	04
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係	連絡先	635	

政策 番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0301	社会教育の推進	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0303	つながりを支える								
		実行計画	01	社会教育推進計画	0602	公民協働事業の充実								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名	多留姫文学自然の里整備活用事業				会計コード	01	款	10	項	05	目	01	事業	11
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	「多留姫文学自然の里創造委員会」と行政がパートナーシップの理念と手法により整備活用事業を展開し、地域の教育力を活用し、事業の推進を図る。「名勝」として茅野市文化財に指定されている「多留姫の滝」周辺には、多留姫神社や歌碑等文学的遺産が多数存在する他、かつては「藤」の名所であった。この景観と遺産を保全し、市民の憩いの場、自然体験の場を創造していく。													
現状と背景 (どうして)	経済のグローバル化の進展や少子高齢化社会の到来など、社会情勢が混迷する中、郷土を愛し地域に根付いた時代を担う子どもの豊かな心を育てるため、自然体験の場、市民の憩いの場を提供する必要が出てきた。「名勝」や文学的遺産を訪ね、楽しんでもらうための整備は継続的に必要。また、多留姫神社横の「神田」で行っている昔ながらのもち米づくりには、多くの子どもたちにも楽しんでもらうイベントとして定着してきた。													
目的	受益者 (誰のために)	幼保小中高生、広く一般市民、観光名所として茅野市を訪れる観光客												
	対象 (直接働きかける)	同上												
留意 図 (どんな状態にしたいか)	意	子どもたちの自然体験の場、また祖父母世代や親子など異年齢間での自然とのふれあいの場、地域の人たちとのふれあいの場にしたい。 多留姫文学自然の里を広く活用・周知するため、イベントの参加者を増やしたい。												
	手段・方法 (どうやって)	地元三区（中沢・田道・御作田）で組織した「多留姫文学自然の里創造委員会」で、各種行事・研修会・学習会を開催する。また、利用しやすい自然体験の場となるように、遊歩道や看板の整備・補修を計画的に実施する。												
評価 指標 の 作 成	活動 指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
		1	多留姫文学自然の里を活用したイベントの開催	イベント開催数	回	年間のイベントの開催数	6							
		2	整備の実施	整備活動実施数	箇所	毎年必要箇所を優先順位を付けて整備する	5							
	3	神田のもち米作り	米作りイベント開催数	回	年間のイベントの開催数	5								
	変更 履歴													
	成 果 指 標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値							
1		里まつりへの参加者の増加	里まつり参加者数	人	平均参加者数	200								
2		神田もち米作りに参加する子どもの増	神田もち米作り参加者数	人	平均参加者数	25								
変更 履歴														

実 施 状 況 （ D O ） 考	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	469,520	469,742	471,000			
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円	469,520	469,742	471,000			
	活動 指標	イベント開催数	目標	回	6	6	2	
			実績	回	5	6		
		達成率	%	83.33	100.00	-	-	-
		整備活動実施数	目標	箇所	5	5	2	
			実績	箇所	5	5		
		達成率	%	100.00	100.00	-	-	-
米作りイベント開催数	目標	回	5	5	1			
	実績	回	4	4				
達成率	%	80.00	80.00	-	-	-		
成 果 指 標	里まつり参加者数	目標	人	200	200	0		
		実績	人	140	123			
	達成率	%	70.00	61.50	-	-	-	
	神田もち米作り参加者数	目標	人	25	25	20		
		実績	人	27	26			
	達成率	%	108.00	104.00	-	-	-	
備 考								

事務事業名	多留姫文学自然の里整備活用事業		事業期間	~	年度	係内番号	04
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係		連絡先	635	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		収穫祭(イベント)は雨天中止となったが、他の行事は予定通り実施した。地区役員として参加しているの で、区の行事も含めてイベントを増やすことは難しいと感じる。区の作業として整備をしていただくことで、低コストに繋がっている。	今年度から行っている米作りのスタンプラリーによって参加者数が各事業増となっている。学校行事と重なってしまった(参観日・運動会)分が平均にすると伸びがでなかった。積立金により、大掛かりな遊歩道整備ができた。		
価値	成果	「こども自然体験」を企画している団体参加により、神田のもち米作りの参加人数定着に繋がった。	引き続き「こども自然体験」を企画している団体参加により、神田のもち米作りの参加人数定着に繋がったこと、スタンプラリー開始により新たな参加者につながった。			
	総合評価 課題	「稲虫まつり」と「収穫祭」は多くの子ども達が参加してくれるが、それ以外のイベントは、横ばい状態となっている。活動を通して昔ながらの手法での体験となるので、イベント定着の工夫が必要である。	学校行事との重なりもあり「稲虫まつり」と「収穫祭」以外のイベントは、横ばい状態となっている。活動を通して昔ながらの手法での体験となるので、イベントは継続し、スタンプラリーの定着を図っていく。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性の内容 策び容	区や役員作業により整備を行っているが、時間の経過とともに荒廃化している部分や自然事象により整備を必要としているものは低コストでの整備を進めていくことを目指している。今後については、時間の経過とともに整備を必要とする箇所がでてくることや、災害等の自然事象により整備を急するものが出てきた場合も含め、事業継続のため負担金は現状維持とする。	区や役員作業により整備を行っているが、時間の経過とともに荒廃化している部分や自然事象により整備を必要としているものは低コストでの整備を進めていくことを目指している。しかし、突発的にこのような事態が発生した場合に事業を継続するため負担金は現状維持とする。また、新型コロナウイルス感染拡大防止による規制がかかる中での事業を、創造委員会・地区・学校と相談し、工夫しながら進めていく。			
作成担当者	柳平 美穂	柳平 美穂				
最終評価責任者	藤森 隆	藤森 隆				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				

事務事業名	成人式開催事業	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	01
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	文化芸術係	連絡先	632	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0301	社会教育の推進		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0303	つながりを支える		
			実行計画	01	社会教育推進計画	0604	成人式事業の推進		

予算事業名	成人式開催事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	01	事業	04
-------	----------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
 青年が成人したことを自覚し、自ら生き抜こうとする人生の新しい旅立ちを祝い、励ます式として開催。子育て・教育関係団体の方々も参列するなど、地域ぐるみで新成人をお祝いする式として定着。旧友との再会により親交を深め合う場の提供。

現状と背景
(どうして)
 平成17年度(平成18年)まで「成人の日」に開催していたが、翌日が平日になるため、県外に転出している茅野市出身者から開催日の変更を望む声が多かった。これを受けて、平成18年度(平成19年)からは、「成人の日」の前日の日曜日に式を開催している。

目的
 対象 受益者(誰のために) 当該年度中に20歳に達する市民及び市出身者
 対象 対象(直接働きかける) 同上

意図
(どんな状態にしたいか)
 新成人が社会人として豊かな心と広い視野を持つと同時に、成人になることで生じる権利、義務及び責任を自覚してもらい。茅野市に愛着を持ち、市や地域のコミュニティづくりの核になる社会人になってもらう。

手段・方法
(どうやって)
 主催：茅野市と茅野市教育委員会 式典：成人代表者による市民憲章の唱和や成人になっての決意表明、祝電披露など アトラクション：消防音楽隊による吹奏楽演奏、八ヶ岳泉龍太鼓の演奏 記念品：読書活動の継続を願い図書カードを贈呈(第3次茅野市子ども読書推進計画で決定) 案内方法：対象者に案内状を送付するほか、広報誌や市のホームページで周知 その他：記念写真の撮影、成人者保管作品展の開催

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	新成人の参加	新成人への周知	人	新成人への案内状発送件数
成果指標	1	成果・効果は何?	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		新成人の成人式への参加	成人式出席率	%	出席者/対象者×100	65
		新成人の成人式への参加	成人式出席率	%	15歳到達時茅野市人口に占める出席者割合	70
変更履歴	※2020年度から成果指標に15歳到達時茅野市人口に占める出席者の割合を加え、対象者(市外出身者で市外自治体の成人式へ参加する者を含む)との乖離を考慮した。					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
財源内訳	事業費等(a)	円	447,839	490,068	574,000		
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
活動指標	新成人への周知	目標	人	710	700	650	
		実績	人	710	705		
		達成率	%	100.00	100.71	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
成果指標	成人式出席率	目標	%	70	65	65	
		実績	%	60	60		
		達成率	%	85.71	92.31	-	-
	成人式出席率	目標	%			70	
		実績	%				
		達成率	%	-	-	-	-

備考 ※目標値は年度ごとに変わるため最終目標値は設定しない。

事務事業名		成人式開催事業		事業期間	2000	～	年度		係内番号	01
担当部署		生涯学習部		生涯学習課		文化芸術係		連絡先	632	
事後評価 （C H E C K） 改革・改善の方向性（A C T）	項目	2018年度（H30）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度				
	（成変果） （動指） （要標） （因分） （析）	高校卒業後市外へ移る者が多くある中で、地元での出席を希望する成人がほとんどであるが、出席率は60%に留まっている。（29年度64%）対象者の内、茅野市出身でなく、出席しない者（転入者等）も一定数あることから数字として現れてくる出席率は伸び悩みの傾向にある。	高校卒業後市外転出者が多くある中で、地元の式への出席希望者が多数占める反面、出席率は60%に留まっている。対象者の内、茅野市出身でなく、出席しない者（転入者等）も一定数あることから、これまでの人口動向を分析し、次年度は成果指標に15歳到達時人口に占める割合を加えることとした。							
	成果	成人ボランティアの協力のもと、厳粛な中にも温かみのあるお祝いの式として成人者、来賓者ともに好評であった。転出者、住所を異動していない市外在住者等状況に合わせた周知・連絡により希望者は全て出席できる態勢としている。	成人ボランティアの協力のもと、厳粛な中にも温かみのあるお祝いの式として成人者、来賓者ともに好評であった。転出者、住所を異動していない市外在住者等状況に合わせた周知・連絡により希望者は全て出席できる態勢としている。							
	総合評価	中学校区ごとに受付、進行等を行っていることから出席が見込まれない一定数を考慮し、成果指標（出席率）を設定した方が現実的と思われる。また、市外在住者にも正確な情報が伝わるよう、HPでの周知を工夫する必要がある。	茅野市出身者の内、市外在住者にも正確な情報が伝わるよう、HP等周知を工夫する必要がある。							
	課題									
	成果	拡充	拡充							
	コスト	現状維持	現状維持							
	改善の方向性	次世代の茅野市を担う若者のため、本事業は継続していくことが望ましい。郷土への愛着や関心を深める機会とするためにも、より多くの者に参加してもらえるよう周知方法の工夫と成人ボランティアの充実を図る。また、令和4年（2022年）4月の成人年齢の引き下げに伴う成人式のあり方については、国からの情報提供及び近隣市の状況を確認しながら検討を進める。	次世代の茅野市を担う若者のため、本事業は継続していくことが望ましい。郷土への愛着や関心を深める機会とするためにも、より多くの者に参加してもらえるよう周知方法の工夫と成人ボランティアの充実を図る。また、令和4年（2022年）4月の成人年齢の引き下げに伴う成人式のあり方については、国からの情報提供及び近隣市の状況を確認しながら検討を進める。							
	策 び 容									
	作成担当者	北原 啓司		北原 啓司						
最終評価責任者	藤森 隆		藤森 隆							
最終評価年月日	2019年5月17日		2020年7月3日							

事務事業名	小泉山体験の森整備活用事業	事業期間	～	年度	係内番号	03
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係	連絡先	635	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0301	社会教育の推進		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0303	つながりを支える		
			実行計画	01	社会教育推進計画	0602	公民協働事業の充実		

予算事業名	小泉山体験の森整備活用事業	会計コード	01	款	10	項	05	目	01	事業	10
-------	---------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
「小泉山体験の森創造委員会」と行政がパートナーシップの理念と手法により整備活用事業を展開し、地域の教育力を活用し、事業の推進を図る。整備の主眼は、小泉山を子どもたちの自然体験の場にするのだが、あわせて小泉山が親子や地域の皆さんの憩いの場として、広く市民に活用してもらえる場所にするため整備を進めてきた。平成13年の委員会発足以降、整備開始から15年以上が経過し、登山道及び案内看板等の大規模な改修が必要となってきた。リニューアル整備を行っているが、今後も継続して整備が必要となっている。

現状と背景
(どうして)
経済のグローバル化の進展や少子高齢化社会の到来など、社会情勢が混迷する中、郷土を愛し地域に根付いた時代を担う子どもの豊かな心を育てるため、自然体験の場、市民の憩いの場を提供する必要が出てきた。小泉山の整備開始から15年以上経過し、設置された看板や整備された遊歩道に老朽化・傷みが目立つようになった。平成29年から重点的に補修や取替えを行っているが、計画的な整備が必要である。オオムラサキの保護活動も、玉川・豊平地区の保育園・小学校・中学校・高等学校に広がっている。

目的
対象
受益者
(誰のために)
幼保小中高生、広く一般市民

対象
(直接働きかける)
同上

意図
(どんな状態にしたいか)
子どもたちの自然体験の場、また祖父母世代や親子など異年齢間での自然とのふれあいの場、地域の人たちとのふれあいの場にしたい。
小泉山を広く活用・周知するため、イベントの参加者を増やしたい。

手段・方法
(どうやって)
小泉山体験の森創造委員会で、各種行事・研修会・学習会を開催する。また、利用しやすい自然体験の場となるように、登山道及び案内看板整備や補修を計画的に実施する。整備活動は、危険を伴うもの以外は子どもたちにも関わってもらおう、区や学校へ協力を要請する。

活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
1	小泉山を活用したイベントの開催	小泉山を活用したイベント開催数	回	年間のイベント開催数	7
2	オオムラサキ保護活動への参加校・園の増	保護活動参加校数	箇所	幼保小中高での保護・観察施設数	7
3	整備の実施	整備活動実施数	箇所	毎年必要箇所を優先順位を付けて整備する	5

成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
1	山開きへの参加者の増加	山開き参加者数	人	平均参加者数	300
2	オオムラサキ放蝶会への参加者増	オオムラサキ放蝶会参加者数	人	平均参加者数	20

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	2,240,000	3,044,000	540,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円	1,140,000	1,688,000			
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	1,100,000	1,356,000	540,000		
活動指標	小泉山を活用したイベント開催数	目標	回	7	7	8	
		実績	回	7	8		
	保護活動参加校数	目標	箇所	7	7	7	
		実績	箇所	7	6		
	整備活動実施数	目標	箇所	5	6	3	
		実績	箇所	5	8		
成果指標	山開き参加者数	目標	人	300	300	0	
		実績	人	300	327		
	オオムラサキ放蝶会参加者数	目標	人	20	20	20	
		実績	人	25	33		
	達成率	%	100.00	109.00	-	-	-
		%	125.00	165.00	-	-	-
備考							

事務事業名	小泉山体験の森整備活用事業		事業期間	~	年度	係内番号	03
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	生涯学習係		連絡先	635	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成果） 変果 動指 要標 因分 （析）		創造委員の殆どは地区役員として参加しているの で、区の行事も含めてイ ベントを増やすことは難し いと感じる。だが、看板の リニューアル整備活動で、 今年度は地区の子どもも 参加で活動することがで きたことから、子ども のみならず親からの小 泉山への関心を得るこ うであった。	専門部会によるイベント が加わったこと、創造 委員会としての講演会 を行ったことによりイ ベント数が増えた。小 泉保育園のリノベー ション工事により、観 察施設が取り壊され た。リニューアル整備 を各地区で行い、創 造委員会定例の整備 作業により整備実施 数が増えた。		
価値（総合評価）	成果	創造委員会代表による 学校訪問、ガイド部会 による登山引率、各イ ベント等を通して、学 校関係者と話すこと も増えてきた。このこ とにより、今年度は、 新たに東部中学校の 地域学習を取り入れ た体験学習を行うこ うであった。	創造委員会代表による 学校訪問、ガイド部会 による登山引率、各イ ベント等を通して、学 校関係者と話すこと も増えて関係作りが できた。また、地域 を通しての整備活動 を行ったので子ども をはじめ家庭への認 知度が広がった。			
	課題	イベント回数を増や していくことは難し いが、内容を検討し、 回数を維持していく ことで参加人数が増 えたり、学校独自の 活動が出てくるの ではないかと思う。	イベント回数を増や していくことは難し いが、内容を検討し、 回数を維持していく ことで参加人数が増 えたり、学校独自の 活動が出てくるの ではないかと思う。 豪雨による危険区 域の間伐や山頂間伐 を始め遊歩道等の 整備が必要である。			
改革	翌々年度方向性	成果 現状維持	現状維持			
	コスト	縮小	現状維持			
改善の方向性（内容）	改善の方向性	3ヶ年計画で県の補助 金により、老朽化した 案内看板や指標・遊 歩道などをリニュー アル整備（平成29年 ～令和元年度）を 実施する見通しが 出来た。令和元 年度以降は通常の 負担金とし、小規 模な補修・改修工 事とする。だが、 整備を必要とされ ている箇所がある ことから、作業方 法を検討し、低コ ストでの整備を進 めていく。今後に ついては、時間の 経過とともに整 備を必要とする箇 所がでてくること や、災害等の自然 事象により整備を 急するものが出て きた場合も含め、 事業継続のため 通常の負担金は 現状維持とする。	元気づくり支援金 （県補助金）によ る案内板等の整 備が終わったが、 通常の創造委員 会や財産区での 遊歩道等の整備 には限界がある。 本年度から3ヶ 年、期間個所の 間伐や、大掛り な遊歩道整備は、 県森林税の補助 金で行いコスト 削減を目指す。た だし、急を要す ものが出てきた 場合も含め、事 業継続のため通 常の負担金は現 状維持とする。 新型コロナウイルス 感染拡大防止の ため規制がかか る中での事業の 進め方を、創造 委員会・地区・ 保育園・学校と 相談し、工夫し ていく。			
策	策					
作成担当者	柳平 美穂	柳平 美穂				
最終評価責任者	藤森 隆	藤森 隆				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				